

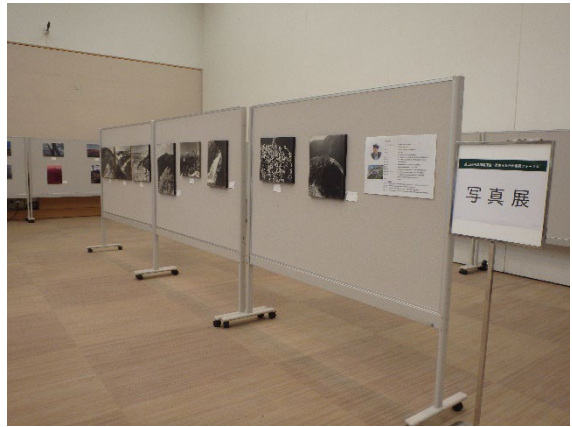
件名	第 52 回 水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム 開催結果概要
テーマ	水源施策の 15 年間の歩みと将来像～神奈川の ^{もり} 森林と水 未来につなげるために～
日時	令和 5 年 10 月 29 日（日） 13:30～16:30（展示会場のみ 12:30～17:00）
会場	パシフィコ横浜会議センター 3 階（神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1）
内容	<p>1 開催趣旨 水源環境保全・再生に係るこれまでの取組・成果について県民へ広く周知するとともに、大綱終了後の施策に向け、県民の意見を幅広く収集することを目的として開催した。</p> <p>2 開催内容（講演会）</p> <p>〔1〕開会挨拶（5分） 土屋 俊幸（水源環境保全・再生かながわ県民会議座長）</p> <p>〔2〕講演（講演 30 分×3名） ・田中 充 氏（法政大学 名誉教授） 『水源環境施策の経緯と課題～神奈川の森と水 未来につなげる』 ・土屋 俊幸 氏（東京農工大学 名誉教授） 『かながわの挑戦の現在とこれから ：施策後期（第 3 期・第 4 期）の取組みを中心に』 ・杉本 貴広 氏（有限会社 杉本林業 取締役） 『水源の森林整備 山の仕事に携わって』</p> <p>〔3〕パネルディスカッション（60分） ・テーマ「水源施策の 15 年間の歩みと将来像 ～神奈川の森林と水 未来につなげるために～」 ・パネリスト：田中 充氏（法政大学 名誉教授） 土屋 俊幸氏（東京農工大学 名誉教授） 杉本 貴広氏（有限会社 杉本林業 取締役） 吉村 千洋氏（東京工業大学 環境・社会理工学院 教授） ・コーディネーター：大沼 あゆみ氏（慶應義塾大学経済学部 教授）</p> <p>〔その他〕会場では次の展示等を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市民事業交流会（活動展・体験教室） <ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人 東海大学地域環境ネットワーク ・南足柄市森林ボランティア協議会 ・特定非営利活動法人 日本の竹ファンクラブ ・特定非営利活動法人 野生動物救護の会 ● 写真展 丹沢の自然・生きもの写真展 <ul style="list-style-type: none"> ・はだの歴史博物館（故岩田傳三郎氏撮影写真） ・吉田 文雄氏 ・石川 雄馬氏 ・飯塚 利行氏

	<ul style="list-style-type: none"> ● パネル展 <ul style="list-style-type: none"> ・水源環境保全・再生施策展示パネル ・もう一つの震災復興 ・神奈川県レッドデータブック 2022 植物編 <p>3 参加者数 126 名</p> <p>4 開催効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演では、3名の講師の方から御講演いただき、それぞれの視点から水源環境保全・再生施策の取組内容、成果の紹介、現場の状況に関する情報を発信することができた。 ・展示会では、参加者に水源地域の情報を紹介するとともに、市民活動団体同士の交流も図ることができた。 ・パネルディスカッションでは、多様な専門家による討論を行うことで参加者の県の施策への理解促進を図ることができた。また、水源環境保全・再生施策に対する参加者の意見を収集することができた。 <p>5 主催 水源環境保全・再生かながわ県民会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民会議委員の計 14 名が受付、会場運営、司会、登壇者を担当した。
特記事項	なし

参考（当日の様子）



活動展の様子



写真展の様子



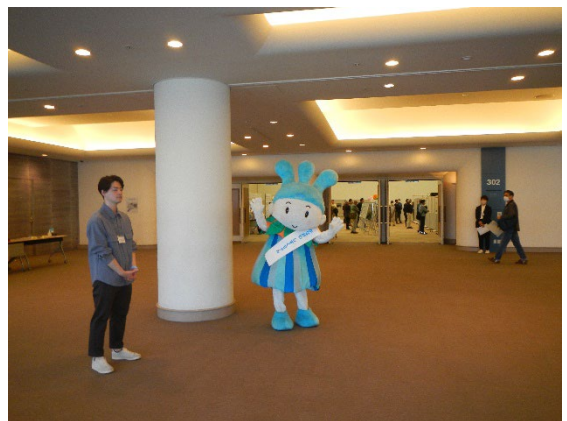
パネル展の様子



講演の様子



パネルディスカッションの様子



かながわ しずくちゃんの演出

第52回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム アンケート集計

令和5年10月29日(日)

場所: パシフィコ横浜会議センター

【参加者数】

126名

【アンケート集計結果】

◎回答数 90名

【回答者情報】

◎居住地 県内 86名 県外 3名 回答なし 1名

(内訳)

県内 :	横浜市	31名	川崎市	10名	相模原市	5名	横須賀市	2名	平塚市	3名
	鎌倉市	2名	藤沢市	4名	小田原市	1名	茅ヶ崎市	3名	逗子市	1名
	厚木市	5名	大和市	—	伊勢原市	1名	海老名市	2名	座間市	2名
	南足柄市	4名	大井町	1名	清川村	3名	山北町	3名	愛川町	1名
県外 :	東京都	3名	山梨県	—						

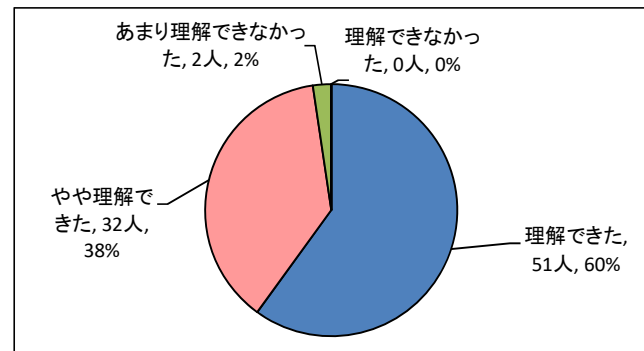
◎年齢	～10代	1名	20代	5名	30代	8名	40代	13名	50代	27名
	60代	16名	70代	14名	80代	4名	回答なし	2名		

◎現在、環境に関する活動をしていますか

している	51名	していない	28名	過去にしていた	5名
------	-----	-------	-----	---------	----

Q1 (1) 基調講演(講演者: 田中充氏、土屋俊幸氏、杉本貴広氏)の内容は、いかがでしたか。

1	理解できた	51
2	やや理解できた	32
3	あまり理解できなかった	2
4	理解できなかった	0
	計	85
	回答なし	5



【理解できた理由】

・講演者: 杉本貴広氏

- ・分かりやすく、ご自身の意見もあって良かった!
- ・本日までの歴史をきいて、大変な努力で我々市民のためにがんばって下さったことをつくづくわかりました。
- ・税ができるまでの大変さがよくわかりました。
- ・要点を簡潔にわかりやすい言葉で説明してくださったので。
- ・過去現在未来への課題や改善された事などを知ることができた。
- ・講演者皆さんの講演テーマが良かった。講演内容に沿った資料があって良かった。時間配分が管理されていた。

【やや理解できた理由】

- ・時間に比して情報量が多かった
- ・講演中、パネル展の人達がうるさかった
- ・杉本さんのお話が実際の森林管理の様子がわかって良かった。
- ・土屋先生の話があまりにも多く、もっと簡単に要点だけ話してもらいたかった。
- ・杉本社長のような現場を知っている方の意見を重要視すべき。
- ・田中先生 PPTの字が多すぎる。今後の課題を中心に話してほしかった。
- ・土屋先生 検証結果を具体的に教えてほしかった。主観的な感想に聞かされた。
- ・「15年目の施策の成果」というところでもう少し時間を割いた方が良かったのでは。施策を実施した県から説明があっても良かった。

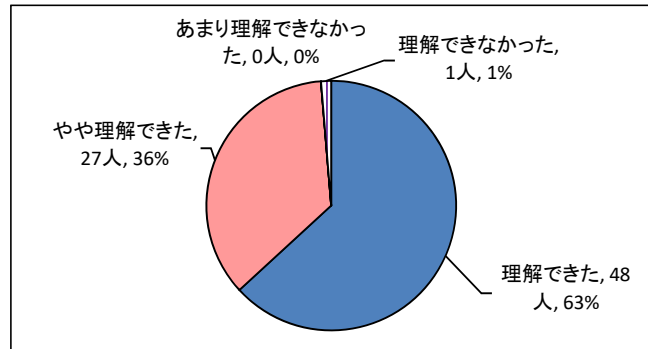
【あまり理解できなかった理由】

- ・「未来につなげるために」について分からなかった。

(2) パネルディスカッションの内容は、いかがでしたか。

1	理解できた	48
2	やや理解できた	27
3	あまり理解できなかった	0
4	理解できなかった	1

※複数回答あり
 計 76
 回答なし 12
 不参加 3



【理解できた理由】

- ・司会の方がうまかった。
- ・大変、これからにむけた貴重な意見をききました。ありがとうございました。
- ・集めた質問の紹介・答えがほしい。50の質問どんなものがあったのだろう
- ・もっと時間がほしかった
- ・様々な立場の方の情報や意見を聴いて自分の生活を振り返るきっかけになった。
- ・左手のスクリーンから発言内容が流れていて聞き逃しがなく内容確認が出来て良かった。
- ・パネルアに現場作業に従事している杉本林業氏が加わっていて良かった。県の関係者にも加わって頂きたかった。

【やや理解できた理由】

- ・理解はできたが、司会も含め話が長い為あきた！！
- ・時間と内容量があっていなかった
- ・質問の意図が一部理解できなかった
- ・前半の散まんな話題は不要。もっと早く「今後」のことに焦点を絞った方が良かった。
- ・水の保全に何が大切か多面的に

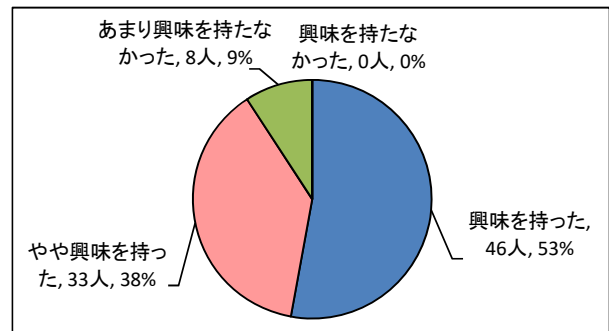
【理解できなかった理由】

- ・誰のためのパネルディスカッションであるか考慮のうえ実施していただきたい。的はずれのパネリストがいる。

(3) 展示会場(活動展・パネル展・写真展)は、いかがでしたか。

1	興味を持った	46
2	やや興味を持った	33
3	あまり興味を持たなかった	8
4	興味を持たなかった	0

計 87
 回答なし 2
 理由のみ 1



【興味を持った理由】

- ・昔の丹沢の写真が現在の様子とちがっていて気になった。
- ・レッドコードを認識した植物観察に役立てたい。
- ・鹿対策、間伐等の経過観察した写真があれば皆様理解を深められるのでは！
- ・川崎市はおいしい水をのめてありがたいです。
- ・地震からの復旧に多大な努力と時間を要したことが解った
- ・会場に対する展示数が適切で、見やすかった。
- ・林業家を入れたのが良かった
- ・人の手を入れないときの森林と手をいれた後の森林の違いが一目瞭然とよくわかって保全の大切さを痛感した。
- ・県の活動の一部や実際を知ることができた。山、川、自然災害、人間が影響し合っていると改めて考えるきっかけになった。
- ・どれも良かった。

【やや興味を持った理由】

- ・しおりが作れて良かったが展示内容はスペースの関係か少し弱い気がしました
- ・写真の説明文字が小さすぎる
- ・写真に年度を入れて欲しかった
- ・竹林の整備と管理に興味がある

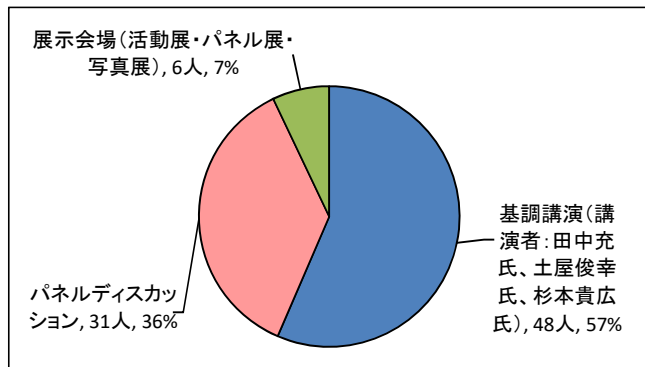
【意見のみ】

- ・相模原・津久井郡の写真があまりなかった

(4)一番印象に残ったプログラムはどれでしたか。

1	基調講演(講演者:田中充氏、土屋俊幸氏、杉本貴広氏)	48
2	パネルディスカッション	31
3	展示会場(活動展・パネル展・写真展)	6

※複数回答あり
計 85
回答なし 10



【基調講演(講演者:田中充氏、土屋俊幸氏、杉本貴広氏)の理由】

- ・講演者:田中充氏
- ・講演者:杉本貴広氏
- ・講演者:土屋俊幸氏
- ・講演者:杉本貴広氏 大変さや必要性等事業体の素直な意見が聞けた
- ・講演者:杉本貴広氏 実写真動画があり、わかり易い
- ・内容が充実していた
- ・遅れたため聴くことができなかつたが興味があつた
- ・講演者:田中充氏、土屋俊幸氏 これから神奈川県森林をどうするのかという点で興味があつた。
- ・講演者:杉本貴広氏 現場がよく見えた。
- ・今まで何となくしか知らなかつたことを少しは理解できました。
- ・今回しなかつた情報も勉強できて、これからの考え方がよくなりました。
- ・講演者:杉本貴広氏 森林ボランティアで一通り山仕事をしているので
- ・杉本さんの説明で、現場の状況がよく伝わりました。

【パネルディスカッションの理由】

- ・水質の話を開ける機会が少ないので参考になった。吉村先生のお話がわかりやすかつた
- ・水源施策の現状を理解出来た。
- ・杉本さんの話と他先生方のお話のからみがおもしろかつた。
- ・水専門の吉村先生の視点が入つたところで議論が深まつたと思う。
- ・わかりやすかつた。
- ・意見や情報を重ね合わせて、話し合い自分も少し自然の事を知ることができた。

【展示会場(活動展・パネル展・写真展)の理由】

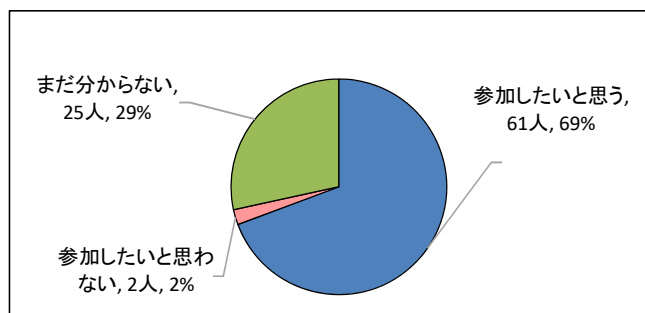
- ・講演者:杉本貴広氏、展示(写真展)
- ・身近な話題が多かつたので、興味をもてた。
- ・展示:写真展

(5)県民フォーラムに参加して、今後、環境に関する活動に参加したいと思いますか。

(現在、環境に関する活動をしている人を含めて、今後の考えをお答えください。)

1	参加したいと思う	61
2	参加したいと思わない	2
3	まだ分からない	25

計 88
回答なし 2



【参加したいと思う理由】

- ・環境保全の為に少しでも役立てたい
- ・森を活用することは森を理解することにつながるから
- ・水質保全・森林整備に興味あります
- ・県西は人口減少地域で声が出しにくい為、こういう機会を活用したい。
- ・自然や野生動物を守る活動が、人間の生活を豊かにすると思うから。
- 1. 県が進めている水源環境施策のような形を継続すべきである。20年は短い
- 2. 県民参加型が弱い。上流域・下流域の役割をもっと進めるべきである
- ・県として税金を環境の保全のためにどのように使っているかがわかり、よかつたと思いました。
- ・日曜日にやってもらえるのは有難い。(平日は仕事ため)
- ・地球温暖化防止委員をしているので、これからも活動する
- ・山仕事がライフワーク(ボランティアとして)
- ・税の投入の効果をしっかりと見ていきたい

【参加したいと思わないの理由】

・県民へのメッセージが何か分からない。税金を取っている理解を県民に伝えるためにやっているように見えた。

【まだ分からないの理由】

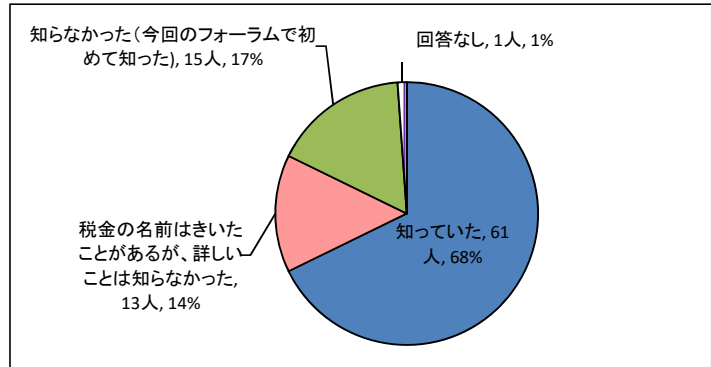
・高齢者の自分にできることが、あるのかどうか分からないので

Q2 水源環境保全・再生の取組を今後どのようにしていくべきか、ご意見をお聞かせください。

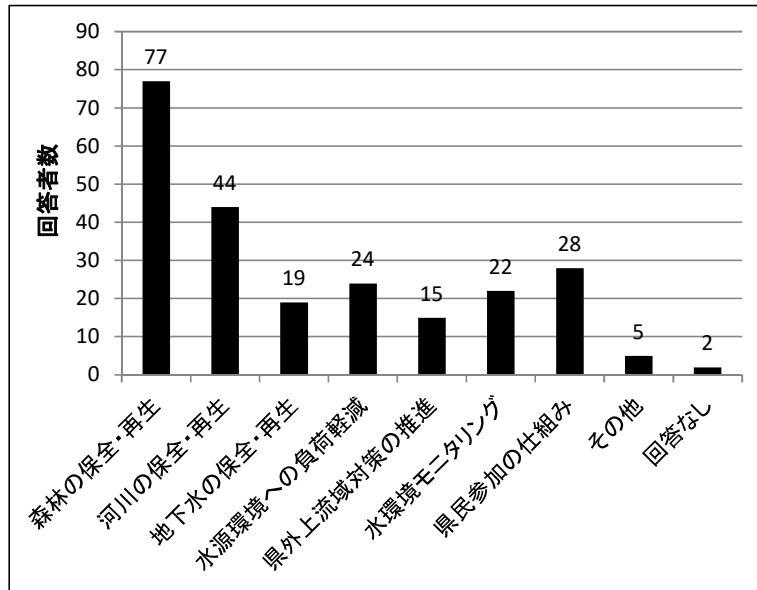
※Q5と併せて最後に記載

Q3 神奈川県では、平成19年度から個人県民税の超過課税(水源環境保全税:納税者一人当たり年額約880円)を県民の皆様にご負担いただき、これを財源に水源環境の保全・再生に取り組んでいます。このことについて、ご存知でしたか。

1	知っていた	61
2	税金の名前はきいたことがあるが、詳しいことは知らなかった	13
3	知らなかった(今回のフォーラムで初めて知った)	15
4	回答なし	1
計		90



Q4 水源環境保全・再生に関わる問題について、関心があるものは何ですか(複数回答可)



【その他】

・温暖化への取り組み

・継続的に行っていく必要性、重要性

・生態系保全

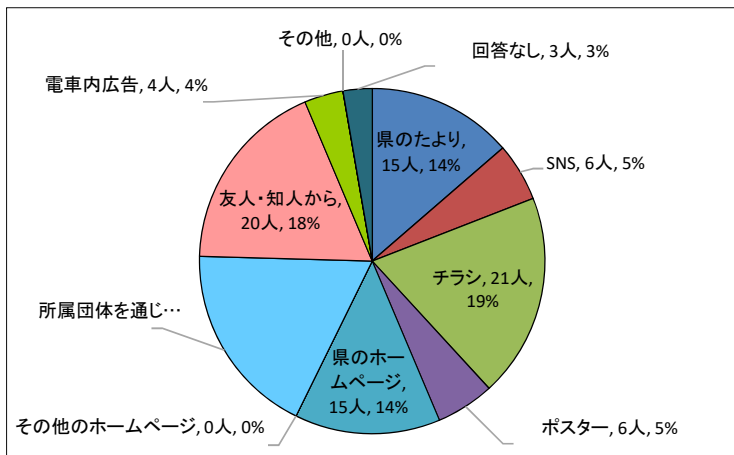
Q5 水源環境保全・再生の取組に関してご意見・ご感想等をお聞かせください。

※Q2と併せて最後に記載

Q6 今回の県民フォーラムを何でお知りになりましたか。(複数回答有)

1	県のたより	15
2	SNS	6
3	チラシ	21
4	ポスター	6
5	県のホームページ	15
6	その他のホームページ	0
7	所属団体を通じて	20
8	友人・知人から	20
9	電車内広告	4
10	その他	0
11	回答なし	3

計 110



【7 所属団体名】

かながわ森林インストラクターの会	団体名: 神奈川自然保護協会
かながわトラストみどり財団	団体名: 県民参加の森づくり活動
県森林協会	水源環境保全委員会
野生動物救護の会	セレスポ

【その他】

- ・杉本様から
- ・相鉄線
- ・区役所で
- ・水源環境保全委員会
- ・X(旧Twitter)
- ・神奈川トラストみどり財団からチラシを頂いて！

Q2 水源環境保全・再生の取組を今後どのようにしていくべきか、ご意見をお聞かせください。

	森林関係	水関係	県民参加	その他	意見	年齢
1	○				切捨て間伐の対策	70代
2			○		県民参加のイベントをもっと広くPRすべきと思う。 県の広報、HPなどにも毎月のイベントを知らせるなど	60代
3	○				森林整備は永続的に継続する必要があります。 不足する財源は何らかの手法で確保する必要があると思います。	50代
4	○				さらに温暖化が進んでいる為、水源管理、森林管理の他、温暖化対策と森林管理を結びつけて検討してほしい	50代
5	○	○	○		水は人が生きていく上で、欠かせない物です。それは森林保全無くしては語れません。それには人手が必要です。一番お金がかかります。 入山税とか、皆が楽しんで払うものから少しずつ徴収するとかできると良いなと思います。キャンプとか。温泉税的な	50代
6				○	民間企業のリソースを引き込んで巻き込んでゆくのが良いのではないのでしょうか	40代
7	○				公共事業から民間での施業への移行。産業として成り立つ状況	30代
8	○				森林再生の取組(植栽、針葉樹・落葉広葉樹の混交化、間伐など)はまだまだ発展途中ですが、水源涵養林を維持・増進させていくには、複数の施業を行い、土屋先生が仰っていた順応的管理や早急なPDCAサイクルの循環に活かしていければよいと思います。	20代
9	○	○	○		今後も重要なことなので体系的な取り組みが必要です。	70代
10	○				違法伐採防止→再植林の義務づけ	80代～
11	○	○			間伐作業の継続	70代
12		○			・水源環境保全税を将来に渡り継続していくこと ・水道料金値上げ分の何%かを水源地向還元するなど…新たな取組	40代
13			○		この財源がなくなると森林整備ができなくなるという後退することは確実。 まだまだ森林にお金をかけていかなければ好転はない。 海と森とお友達、生物多様性の問題も含めて、神奈川県は日本の縮図といわれており、この税制は未来へ引き継ぐ有効な制度を残してほしい。	70代
14	○	○	○		県民へもっと周知を	60代
15					森林整備より林業としての産業の自立化支援も付加していただくと良いと考えます。	50代
16	○				パネルディスカッションで理解した。同感です。	70代
17	○				森林の重要性は増々大きくなっており、今後も取組みを継続すべきだと思う。	50代
18	○	○			水源環境保全税を継続するか否かはこれからであるが、いずれにしろどう水源環境を保全・再生するか。 持続可能な仕組みを計画策定20年を迎える前に考えなければならない	50代
19	○	○			荒廃した森林を良好な状態にするには多大な労力等が必要。状況が改善された森林の機能維持をなるべくコストや労力をかけずに実現するためには、どのような方策が必要か十分検討すべき。	50代
20	○				森林管理は、短くても50～60年スパンと考えている。 長期の計画を立案して、世代を超えた取り組みが必要だと思います。	50代
21	○				森林を保全する事業者に対して更なる補助金を出すべき。事業としては成り立ちにくいので森林から受けるサービスの対価として支払うしくみでいいと考える。	60代
22			○		県民の参加意識をもっとアップする努力が必要だと思う。	80代～
23	○	○			1と2は切り離せるものではないので同一テーマとして扱うべきでしょう。	80代～

24	○				森林を荒廃させないためにシカの管理が大切だと言うが、広大な丹沢の多数のシカをどのように管理していくのか？ハンターはそんなに多くいるのか？疑問に思いました。森林が取組みをやめると荒れて水道の水が悪くなる。	回答なし
25	○				神奈川県は独自水源を確保しており、水源環境に恵まれている。豊かな森は豊かな海を育てるというが、豊かな森林と海を持つ神奈川県はこれからも森林環境保全を継続していくべきだと思う。神奈川県に恵まれた自然環境を保全する事は県民にとって最重要だと思う。	60代
26				○	20年取り組んで、成果があった、よかった、で終わりにするのではなく次のステップ(カーボンゼロ、ネイチャーポジティブ、グリーンインフラ)へ進んでほしい。	50代
27				○	苦労や施策に投入した時間・税金・人的資源・効果など、大きいもののはずなのに認知度が低い気がする。もっと広報を。	30代
28	○	○	○		未来の人達に残すべきもの、残さないもの、全国の人達に啓発してほしい。また、関心のある人にどう行動に移すべきか、移したいと思っている人の背をおしてほしい。	50代
29	○	○			継続するのか、新しい取組をするのか、早い段階で県民を交えたギロンが必要。残された時間は3年しかない。水源税導入時のことを考えればかなり検討が遅いのではないか。県民と十分なギロンができるのか？	40代
30	○	○			先生方もお話しされていたように、継続して取り組まなければいけないと思います。(環境の保全等は時間がかかるため)	50代
31	○			○	1. 森林関係→田中さん土屋さんが言うように水源に特化しない方がいい 3. 県民参加→この工夫にもっと予算を使った方がいい	30代
32	○				森林整備をして明るくなった後何もしなければまたくらい森林となり、公益的機能がなくなってしまう。森林の若返りも含め、しっかりと継続できる仕組みづくりが必要だと思う。	50代
33	○				杉本氏のお話を聴きまして森林保全の長期的な取り組みが必要だと思いました。最近の激じん化した災害対策としてもです。	40代
34	○	○		○	・施策は継続して取り組むべきです。(森林) ・山梨による影響が大きいのであればもっと協力を仰ぐべきで県の施策による効果が見えてこない(水関係) ・トータルで評価したうえで税が必要か考えるべきです。	50代
35	○				何とんでも大本のしんりん保全ができてない、いい水ができない。又、海もしんりんからつながっている、これからはしんりん保全に力を入れてほしい。もっと資金があるなら、その方向へ考える必要があると思います。	70代
36	○				従来通り森林環境を改善する活動を継続する必要があると考えます。	60代
37				○	県民が負担している経緯から、15~20年の成果を森林地域を訪れたり、消費を通して相互交流できる制度にしてほしい。	30代
38					20年を区切りとしてしっかり検証まとめ、次のステージの施策継続を望みます。	60代
39				○	より県民参加をうながしていく必要があると思う。	20代
40	○				森木も大切ではないでしょうか	80代~
41	○				継続して取組を行うことが大切だと考えるが、続ける方法や無駄にしないための検討が大変だと感じた	40代
42				○	水源環境保全税の維持と今まで以上の多面的な森林・水源環境の保全・活用をしていくべき	50代
43	○				・取組を継続すべき ・脱炭素や花粉対策をふまえた若返りも必要	60代
44	○				取組を継続していくことが必要なことがわかりました。自然を相手にする場合には20年は短いと思います。	50代
45				○	水質保全の点で良好な水質を維持するため、水源地域への財源投入をさらに進めるべき。	40代
46	○	○			個人的には保全税の納入額を1000円程度にしても良いのではと思います。結果的に森林の保全と良質の水が得られると考えます。	60代
47	○				土壌保全のための植生回復の取り組みは効果を挙げているとのことですが、対策をやめるとやがて森林が暗くなり、シカが増えてまた劣化した森林に逆戻りしてしまいます。取り組みは継続することが不可欠だと思います。また、脱炭素や防災・減災、生物多様性など新しい課題にも対応した包括的な取り組みが必要になると思います。	回答なし

48	○				森林の保全・再生は、20年間で改善するには限界がある。 大綱の期間が終わったあと、どうしていくのかの議論が必要。	50代
49	○		○		第4期5ヶ年計画で終了ではなく、継続する施策を残りの3年で考えるべき。県民参加活動も一部マンネリ化している活動もあると思われるので、若い人の参加を推進すべき。	60代
50				○	大綱終了後の公平で、透明性のある、持続可能な仕組みづくり。 将来にわたる、良質な水の安定供給は、森林課、河川課が山や川で頑張っても地下トンネル、メガソーラー等の大規模開発がなされれば長年の努力もすぐに崩されてしまいます。新しい仕組みの中では、分野横断的な取組、仕組みを期待しています。	40代
51	○	○			未達成の部分もあり、また水や森林(変わっていくもの)を相手としているものなので、継続していくべきものと思います。	40代
52	○	○			地球温暖化や大気汚染は、自分の普段の生活の中の問題なので関心が強いですが、森や川の問題は、学者さんや公的機関が取りくむことのような思いがあるのが、正直です。(私は今月県外から転入してきました)一般人の私は、学者さんより「くもん」のような親しみやすい存在からのアピールが耳に届きやすい。ふだんの生活の中で、私でもできる具体的なことをピーアールしてほしい。	60代
53	○				森林整備の支援を継続すべき。	40代
54	○	○			水の水質安定確保期待しています。	40代
55		○			水源環境保全をすることで、次世代に水を残すことはできます。 しかし現在水道民営化や、水源の他国の買収されてしまうと保全は誰のためにしているのか! ?となります。この点に関しての今、問題点、未来を聞きたい	50代
56	○	○	○		何らかの形での継続が必要と考えます。	50代

合計 41 19 13 5

Q5 水源環境保全・再生の取組に関してご意見・ご感想等をお聞かせください。

回答希望の有無について、どちらかに○をつけてください。

回答は後日、県水源環境保全課ホームページに掲載させていただきます。

	森林関係	水関係	県民参加	その他	意見	年齢
1	○	○			森林災害がもたらす、水質の悪化の分析率	70代
2	○	○	○		それぞれの成果を具体的な数値、事例で県民へ報告していくべきと思う。(財源の費用対効果)が見える様に。また活動の数値目標がそれぞれ立てられれば良いと思います。	60代
3			○		森林所有者、事業者の方々の意見・意向をクローズアップすべきと思います。	50代
4					予算面も含め、数年ではおわらない為、継続管理できる仕組みを求めたい	50代
5	○	○			水がきれいだと、海水も良くなる。その為には森林の状態が良くないといけないと思いました。	50代
6				○	民間企業のリソースを引き込んで巻き込んでゆくのが良いのではないのでしょうか	40代
7	○				この取組で所有者と林業事業者のマッチング・施業集約化が促進され、事業終了後に公的介入がなくなると森林循環が促進されるような状況になればいいと思いました。	30代
8	○	○			私自身横浜市民であるため、昔から道志の水について認知していましたが、山梨県道志村における水源涵養林の育成は、県民フォーラムで紹介した活動や再生施策の中に取り込まれているのでしょうか？ また私自身、大学院で森林動態調査を行っています。境界分野として「林政学」「保全生態学」「水文学」に関する知識や活動事例の認知が必要だと感じ、このフォーラムに参加しました。現場の人の声や施策についての理解を深めることができたと思います。	20代

9	○				森林の整備が重要だと思います。実現するためにはしっかり予算を確保すべきです。	60代
10	○				大切なことだと思った。今後も継続的に取り組む必要がある	70代
11					林業の継続を維持する施策、正しい規制緩和。木材利用の活性化	80代～
12		○			上質な水作り	70代
13		○			ダム湖の水質保全のために導入した高度処理型合併処理浄化槽の県補助金の継続と今後のダム湖水質管理をどう考えているのか？	40代
14			○		丹沢湖上流域、又西丹沢の山々(東丹沢だけでなく)にも眼をむけて下さい。R8年で終わりにしないで継続を望む。山北町は90%森林そして水源(横浜、川崎、横須賀の1部とさく)です。	70代
15			○		予想していたよりも多くの方達(年齢性別もいろいろ)が参加されていて驚いた。今後もより多くの方たちに興味をもってもらいたいと思う。	50代
16					県民であっても知らない人、無関心の人達が大多数を占めているのではないかと感じます。異業種の方々の知恵を借りて林業の死亡事故の低減、作業効率化の推進等、仕組みを作っていただきたいと思います。	50代
17	○				ここ数年、自然災害、山火事、クマ、シカ、イノシシ被害やスズメバチ被害等が多発の感じを受けます。少子高齢化で放棄林が今後増える心配を持っています。放棄林の追跡と改善を取り上げて欲しい。	70代
18	○	○			水源環境の保全再生は水源地域だけの問題ではない。都市部も良質な水の供給を受け、恩恵を受けており県全体で考えなければいけない問題。	50代
19			○		環境保全税の用途や効果(Before/After)が県民に伝わる広報があると良い。この広報が森林ボランティア等の成果につながっていることを認識してもらうことで継続的な協力にもつながると思う。	50代
20		○			東京と比べて神奈川の「かつ水」が少ないことをアピールしても良いのでは	60代
21	○		○		水源環境税を支払うことには、抵抗は全くないが、もっと県民に広く宣伝することが必要だと思います。もっともっと横浜や川崎に住む住民や企業に森林が保全が重要であることを伝える必要があると思う。	80代～
22					森林が身近にある神奈川の特性を生かした県民参加型の取組みを充実させてほしい。	70代
23	○				森林関係を完全に行えれば水関係は比例して良くなるものです！山梨県には下水処理等への補助金を明確に示して改善する必要があると思います。桂川に浄水場、浄水池を作ってはどうか！←自然に同化出来る程度のもの	80代～
24					県民への参加の呼びかけが少ない。県から市町村に知らせるシステムがよくない観望があります。 この施策のPDCAサイクルを回すという考えは良い。 空気と水の質保証を県が担う役割という考え方を導入すべき。この税金を使って県内市町村で考えて森林を拡大するのを山に限定するのではなく都市部の河川の流域にも広げたら健康社会につながると感じた。	回答なし
25	○				環境保全継続の重要性を改めて強く感じた。	60代
26			○		講演やパネルディスカッション中、展示会場の方？の話し声でざわざわしていて若干気になりました。静かにしてもらえるとよかったです。	50代
27			○		具体的な県民が参加した活動。 時間を守って下さい。(県らしくない！)	70代
28		○			水問題は時間がかかるので長いスパンで取り組みたい。	60代
29			○		Q2で引き続きですが、環境学習に力を入れて、認知度を上げるべきだと思います。	30代

30				建築、土木と森林保全と密に関係しているので、緑を切り崩して宅地を作るなど、国、県が未来につなげることをともに考えてほしい。	50代
31				今回のフォーラムは施策を行っている県の姿が全く見えない。内容(テーマ)から考えれば見せるべきだったのでは。	40代
32			○	まずは知ることが大事だと思います。今回初めて参加し、このような取り組みをなされていることを知り、自分も保全に対して意識していこうと思いました。機会があれば知人にも紹介したいです。	50代
33	○			県の取組が大変素晴らしいので今後も取り組んでいただきたい	30代
34	○			林業の現場で働いている者です。森林には多くの役割やメリット、ニーズがあります。登壇者がのべたように水源に特化せず、神奈川の森林をどうしていくか今後多くの議論が必要だと思います。	30代
35	○	○		今後の方向性、継続していく必要性が高いこと。又、森林、水環境の多面的な効果に着目していくこと。これらが重要であることが良くわかりました。	50代
36	○			山を見ていて、明るい人工林が増えたと思います。	50代
37	○			すぐに結果が(効果?)出るわけではないので、中々市民の理解が得られない時もあるでしょうが、今後の気候変動には絶対必要な対策だと思いたい。しずくちゃんも応援しています。子供が水源に関して学ぶためのきっかけになり良いと思います。	40代
38				神奈川県がこれからも県民といっしょになって、しっかり考え、実行していかないといけないと思っています。	70代
39	○			従来の活動により県の森の状態が改善されていることが分かり安心しました。	60代
40				国の森林環境譲与税の導入は、森林業の活性化に大いに役立つと思う。大いに活用して行くべきと思う。	70代
41				Q5は回答なし(Q2は回答ありのため、Q2の内容を添付) 県民が負担している経緯から、15~20年の成果を森林地域を訪れたり、消費を通して相互交流できる制度にしてほしい。	30代
42		○	○	・水源環境を保全していくには、生態系の保全も重要だと考えます。神奈川では外来種駆除や在来種の保護を積極的に行っていく予定はありますか？ ・生活排水処理施設の整備促進によって、河川の水質は向上していると述べられているが、今後も水質向上を目指していくのか？ 瀬戸内海の「改正瀬戸内海環境保全特別措置法」のようなルールの下、単に水質を向上させるのではなく、コントロールしていくのか？	20代
43				多方面から自立対策を。	80代~
44			○	今までの取組に敬意と感謝を感じている。今後も頑張ってもらいたい。取組みを応援していきたい。	50代
45	○			ぜひ取組を継続していつもらえたらと思います。	50代
46				Q5は回答なし(Q2は回答ありのため、Q2の内容を添付) 水質保全の点で良好な水質を維持するため、水源地域への財源投入をさらに進めるべき。	40代
47	○	○		水源環境保全税が有効に活用されはじめたと感じております。 山歩きが趣味ですが手入れが行き届いた地域とこれからの場所の違いが一目でわかります。	60代
48	○	○	○	神奈川県での取り組みの独自性や先進性、県民参加や科学的プロセスを経た順応的管理により大きな効果を挙げていることをもっともっとアピールしてもらいたいです。	回答なし
49				県として税を徴収しているが、当初施策に対する予算を算出して税額を決めたのか、負担にならない額から算出されたものなのか。後者であると推測されるが、それで十分な対策が可能なのか。	60代
50			○ ○	今後のフォーラム、その他の公開イベントの登壇者のジェンダーバランスに配慮してほしい。大綱終了後は、「水」のみならず、生物多様性、COPの目標を先取りするようなものなることを期待しています。	40代

51	○				大綱後、20年間行ってきた事が、リセットされてしまわないように。確実に未来につなげて欲しい。実現可能な施策の継続を。	40代
52	○				県民参加の森林づくりの効果について教えてほしい	60代
53	○	○			今日のフォーラムで森林豊富な神奈川県を取りくみが質が高く、みなさん熱心なのが、よくわかりました。県民、国民全員が、自分たちが住んでいる地域の自然を大切に愛するようになってほしいです。自然破壊を食い止めるのは、一部の人の力では無理で国民全体の課題になってほしいです。学校教育などにも取り入れられるといいですね。	60代
54		○			ピーファス問題はないのでしょうか	50代
55	○				土屋先生から、高標高域の下層植生対策は「達成」とありましたが、一時的なものと考えます。捕獲圧を下げればシカの個体数は数年で倍増します。モニタリングと捕獲努力の継続が必要と思います。森林の多面的な価値(防災や経済面を含めて)に、より着目した取り組みを期待します。	50代
56	○	○	○		日々の生活に追われている現状、忘れられているが、水は生命そのものです。良質で安全な水を将来に渡り十分に供給出来るよう水源林を含め広く環境保全が大切と思います。	70代

合計 26 16 12 5

<<参考>> 当日にいただいた質問・意見

1	「公平な」税負担の在り方について、様々な経緯があることを学んだ。ただ、どうしても、県民全体から徴取した税金を水源地域に投入、ということで、都市部の理解が必要。同時に水源地域が、当たり前の財源ではないことを理解することが必要と感じました。
2	①なぜ水源環境税（施策）は20年なのか、（30年、50年なのではないのか）。森林再生構想は50年であるのに。 ②税制はなくなっても大綱は残るのか。 ③特に水源税を負担している人の人口が多い都市部の方に水源林をみてもらうことや、水源林の材木をもっと使ってもらう仕組みが必要では。
3	税制への県民理解の評価方法、具体的な項目はあるのか？
4	私有林の管理への公金投入は賛否あると思います。水源環境保全税導入までの過程において、反対意見も踏まえ、どのような議論を経て現在に至ったか、ご教示くださると幸いです。（既に何度もお話しされているトピックと思われるので、その場合はお読み捨て下さい） 事業完了後の管理形態についても、可能な限りでご教示ください。（森林所有者が自力で行えないのであれば、施業計画や施業主体はどうなるのか）
5	神奈川の水源環境施策：「大綱」の概要（その2） 5、県外上流域施策の推進において、具体的に、どのような「県外上流域対策」を推進しているのか？ ・県外とは、どの様な取り決め、連携をしているのか？ ・活動費用の分担などは、どの様にしているのか？
6	那須に山林を持っているが、東日本大震災の福島第一原発事故で放射能汚染のため売りに売れない。汚れた山の除染は本当に可能なのか？
7	シカの食害について 将来の税収減/人口減を考えると、税金を投入する管理保護は、持続可能ではないと考えます。 かながわ森林50年構想にある野生生物の生息ゾーン（混交林）の促進で、自然の営みの中で頭数が一定に保たれればと思いますが、将来像はいかがでしょうか。
8	施策大綱の施策展開の視点に 総合的な施策展開、県民参加、順応的管理の3つがかがげられていますが、今日のお話で、総合的な施策展開のところがあまりなかったように思います。 行政のとりくみは、よく「タテワリ」と言われ、通常は横のレンケイが不十分と言われがちですが、この総合的な施策展開のところに有効だったのでしょうか。どのように感じておられるか、おききできるとありがたいです。
9	近年の鹿、対策はどの様になっていますか。 1. 増減状況は 2. 対策は？効果は
10	「丹沢高標高域の下層植生回復と土壌保全」は「達成」との説明がありましたが、シカの影響が続く中、植生保護柵がホカクによる一時的なものではないでしょうか。 少し補足が必要と思いました。
11	生活排水処理施設の整備について、水質向上との記載があったが、今後も向上をおすすめしていくのか？ それとも「改正瀬戸内海環境保全特別措置法」のように栄養塩（窒素やリン）の排出量をコントロールする可能性もあるのか？意思を伺いたいです。

12	土屋先生のお話にもありましたが、モニタリングが20年で終わるのは、もったいないと思います。継続していけないでしょうか？ また、自然環境に複合的な課題があるため、「水源」以外にも視点を広げた方がよいと思います。「水源（トル）環境保全・再生（←ネイチャーポジティブの考えを取り入れてほしいです）」
13	新しい取り組みだからこそ、評価手法を検討しながら進めていく、という点に驚いた。既存データ、既存手法の組合せになると思うが、これからの周知も必要で、やり方次第で良くも悪くもなってしまう。
14	令和9年度以降も、水源環境保全税の徴収は続くのでしょうか。
15	令和9年度以降も新しい水源環境税を徴取すべき。
16	水源保全対策（施策）と林業政策はバッティングする項目があるのではないかと？その場合の対応方法はあるのか（検討内容）
17	水源環境保全・再生計画以前の対策はなかったのか？ 何を改善する必要があったのか？以前の対策では無理があったのか？
18	5) 現時点での施策の成果と課題 ・総合的評価において、適切な評価は極めて困難としながら、調査の結果、「十分に高い効果を上げている」と評価できる、とした根拠は？調査の結果とは？
19	かながわの「挑戦」との表現が、分かりやすかった。その中で、大綱期間が「20年」これは、あまりにも短いとのこと。継続は「義務」とまで表現されていた。 質問1. プロジェクトの期間は、どの程度の長さが良いのか。 質問2. 「自然を甘く見てはいけない」とは、もう少し説明してほしいです。
20	私有林の公的管理 まだ、多くの私有林が管理できていないように感じるが、現状の管理状況はどうなのか。問題や課題は何があると認識されているのでしょうか。
21	「かながわ森林50年構想」について ・発表から17年経ちます。進捗、評価はなされていますか？ ・大綱終了前に、100年構想を打ち出しても良いように思います。いかがでしょうか？
22	「森は海の恋人、海は森の恋人」という言葉があります。貴社と海の企業との良い協力のおもしろいエピソードがあれば聞かせてください。
23	山守を担う会社さんの肌感覚として、標高何百mくらいまでの山が、更新し続ける（手入れをつづける）のがよいと感じますか？
24	間伐は知っていても、「下層植生」、「枝打ち」という言葉を知らない人は多いと思う。林業の活性化含め、広報が必要だと思う。
25	施業後の提案を行う機会はあるか。
26	テレビなどで、洪水被害の映像や写真をみていると、たくさんの流木が流れてきて、道路をふさいだり建物を壊していますが、丸太を短く切ると流されやすくなるので、短く切らない方がいいかと思いますが、いかがでしょうか？
27	事業体の方はどのくらい水源林の整備をしているのですか。（水源林以外との割合です。）

28	人家や道路の近くに森林を所有している所有者の責任と負担は、とても大きいと思います。公的な管理や支援がなく、対応できている事例はありますか。
29	持続的な林業の維持、育成を支援するための仕組みづくりが必要と感じています。※将来的に補助金に頼らない。 木材の利活用（公共・民間事業）を強力に推進する仕組みを一緒に考えていかしていただきたいと思います。
30	非常に興味深い講演をありがとうございました。質問が2点あります。 ①林業が必須な業界であるのは分かりますが、国産の木材は多く廃棄されたり、放置されているそうですが、そういった問題の解決に向けて何かされていたら教えてください。 ②私は現在大学院生なのですが、林業というのは、どうしても田舎の年配者が中心になって行っているものというイメージで、あまり強い魅力を感じる業界というせんでんが強くない印象にあります。その点について、どうとりくまれているか教えてください。
31	外材に押され、日本の林業は衰退の一途を余儀なくされ、林業従事者の高齢化、減少で増々ダメになっている。その為、山林は放置され荒れ果て、改善しようにも、手のほどこしようがなくなり、これではいけないと、林業再生を目論み、水源環境保全税を導入し、それ以降各場所で間伐を主に、木材の生産が進められた。 この施策は、あくまで経済林とし、実施されたもので、環境の為とかいうけど水源地域の水量・水質がどれだけ向上したのか実証してきているのしょうが、税はあくまで林業の再生の為ではないでしょうか。
32	本事業は、林業事業体と水源林との結びつきの端緒としては、非常に意義のあるものと思います。発展的に、公的介入を伴わない山林と林業事業体との関係の構築（定期的な施策実施や経営計画策定といった集約化に資するとりくみ（マッチングなど）事例があればご教示ください。
33	杉本さんに質問です。 現在は水源林関係事業で県か市町村からの請負事業の受注により会社経営ができています面があると思いますが、将来的に県や市町村からの請負仕事が減少していった場合、造林補助金などで会社経営は継続可能なのでしょうか？
34	これからの状況を考えますと、地球温暖化は、止めにくい状況の中で、今年の夏のあつさ、そして来年はもっと気温上昇が考えられています。そのような状況では森林を守って、育成して、ケアしていくことに、もっとお金も必要になってくると思います。20年で終わらせることなく、水源の地域も、国の森林環境税、森林環境譲与税の負担も必要であり、県の森林税も継続して必要だと思います。 ですので、その方向でがんばってほしいです。 ※個人所有者ではなかなかむづかしいです。やはりこうてきにやっていくしかないと考えられます。そして、定期的にケアして行ってほしいです。
35	県民が良質な水を安定的に確保できるかどうかは、天候次第（特に梅雨期の雨量次第）というイメージがありましたが、今夏は梅雨期の雨量が少なかったにもかかわらず、水不足に少なくとも本県はならなかったのは、これまでの取組の成果ととらえてよいのでしょうか。
36	良質な水源を安定的に持続可能に得るためには、健全な森林の生態系が必要不可欠であり、その生態系を守るのは整備ではありますが、生態系をつくるのは、生物多様性だと思います。気候変動対策においても、食料問題においても水源問題においても、全て生物多様性保全こそが最も重要で有効な対策であると考えておりますが、いかがでしょうか？ もっと生物多様性保全を前面に出し、最優先に推進して頂きたいです。逆に生物多様性保全対策から全てを組み立てて頂きたいです。

37	<p>講演の中で出てきたネイチャーポジティブについて、どんな変革を目指したいのか、それぞれのイメージを聞きたい。</p> <p>通常、環境保全というと、過去の時点に回復させるというイメージを持つ方が多いと思います。例えば、近代化・工業化以前の森林。今の時代にあったこれまでにない森林のあり方を目指すのがネイチャーポジティブという考え方ではないかと理解しましたので、講演者の方々のもつ新しい森林のイメージをお聞きしたいです。</p>
38	<ul style="list-style-type: none"> ・森林所有者の自主管理 ・林業者の経営（技術の継承 人工林・自然林） <p>→大綱後の手法や考えられる事、けねんについて具体的に伺いたいです。（大綱後のこと）</p>
39	<p>現場からの話で、大変興味深い内容であった。</p> <p>最後にお話のあった「新しい仕組み」は、どの様に獲得されるのか。事業者として、県等の行政、大学等の研究機関に期待される事は、どんな事ですか。</p>
40	<p>山北町丹沢湖（三保ダム）より上流に在住する者です。現在、町では三保ダム水質保全を目的に町設置型浄化槽、特別会計事業として、ダム湖上流域の住居や施設から排水される浄化槽設備を高度処理型の合併浄化槽の導入を進めてきました。財源は水源環境保稅から毎年1500～2000万の県支出金から新規設置工事の一部、及び維持管理費用を充当していますが、令和4年度から県の補助は、出さず令和8年度を最後に、自己負担とし、個人払下げの旨、案内が届きました。</p> <p>水源環境保全税は、ダム湖の水質環境を維持するため、未来永劫実施すべきもので、ダムを設置した県の責任も大きいと考えます。</p> <p>県の都合でダムを作り、県の都合で水質保全を理由に高度処理型浄化槽を設置し、県町の予算で管理運営を約束していたのに、財源がなくなったから個人負担でやってくれ！はダム湖上流に住む者にとって、とても納得できることではありません。</p> <p>是非今回のフォーラムを通じて、水源環境税の継続又は、森林環境譲与税等、他の財源からの充当ができないのか？ご意見をいただきたいと思います。</p>
41	<p>川崎市に住んでいますが、昔は田んぼもあって、カエルやトンボや～自然のいきものがいっぱいいたのに、今はマンションや家ばかりになっています。川まで両サイドがえんえんとコンクリートで固められてしまっていて、これでは、全く、自然がなくなっております。おまけに、公園も木を切り倒し、かわりの木を植えないので、どんどん緑がなくなっていっています。この現状は、SDG sにも、それていると感じています。</p> <p>コンクリートで固められているのをもとの本来あるべき川の姿にかえられないのでしょうか。昔は川の周りは桜並木でした。昔の方が本来あるべきSDG sの姿にある意味近かったように思います。</p> <p>しかしながら、松田にあります水源林は、よくケアされていて、しっかり守られていると現地に伺って思いました。川も自然のようでした。</p>
42	<p>水源環境保全の取組に地域ごとの環境差を踏まえた財源配分の差（優先配分枠や重点配分枠）を設けてほしい。</p> <p>例えば三保ダム周辺や酒匂川流域は県内でも水質が良いと聞きます。環境基準だけを基準にするのではなく、県内他流域間の相対的な水質に着目して、水質保全のインセンティブを設ける視点が必要と考えます。</p>
43	<p>講演2「5）現時点での施策の成果と課題」の森林環境セクション、及び講演3の「新たな課題には新しい仕組みが必要（P33）」と兼ねて気になった点がありますが、近年人工林の間伐や植栽の際にスギ・ヒノキ人工林内にミズナラやイヌブナといった元来の落葉広葉樹種を混交させることで土壌流出を防止させたり、種多様性の増加を促進させる取組みが行われていますが、県ではこのような取組みが行われているのでしょうか？行われている場合は事例についても詳しくお話を聞きたいです。</p>

44	<p>森林や水資源の保全には、在来種を主とした生態系保全も必要であると考え。しかし、神奈川ではあまり積極的に保全を行っているように感じない。地球温暖化による環境変化を受け、外来種の侵入が発生すると、生態系のバランスが崩壊し、環境悪化につながるのではと考える。</p> <p>総括：外来種駆除や在来種保全によりフォーカスをあてるべきだと思うが、それに関して意見を伺いたい。</p>
45	<p>評価には長い時間がかかる一方、新しい課題が発生する。また、そもそも既存の取組み、課題を把握している県民がどの位いるか、不安になった。この施策に限らないが、どのように周知・広報するか？ここをもっと考えるべき。</p>
46	<p>「森林所有者の自主的管理」が今後の課題と伺いましたが、昨今話題となっている外国人における水源地の買収について、どのように対応すべきか聞きたいです。</p>
47	<p>いつもおいしい水を供給して下さって神奈川県に感謝です。水源のもりを手入れしてくださる林業さんにも感謝であります。神奈川県は木々を大切にはぐくみ、松田の森林源も大切にケアされているのをこの度みさせていただきました。地球温暖化の事もあり、適応できない木々がかれたり、また、年若い枯れていく木々もあって、松田の森林源では若い木も育てていられました。水源林をしっかり守っていただけるのをみて、感謝しました。しかしながら、今年の夏の暑さを体験しまして、これから先に、水源林の木々がこの暑さにこれからたえていけるものか、心配になりました。少し話がずれますが、横浜の山下公園のバラは、きれいに咲いてきました。しかしながら、少し山の上にある川崎市のいくた緑地のバラ園の花は、咲くのが遅く、また、今年はずぼみが小さいとのことでした。話の中で個人の家の花壇にも異変があったとのこと、人間以外に、木々や花に、影響がでていますが、これからの対応（木の状態とか木の種類）はどのようにされるのでしょうか？山守が必要ですよね。</p>
48	<p>水源林整備においては、野生鳥獣管理も非常に重要な要素と思います。本事業においても、シカの管理捕獲や獣害防止施設の設置等のとりくみを推進されているようですが、生息頭数や被害面積の推移等、数値があればご教示ください。</p>
49	<p>県民参加の森作り活動に参加しています。毎回の活動で森を良くしていることは実感していますが、県レベルでこの活動の効果はどの程度なのか、測定や評価はされているのでしょうか。効果が得られるには時間がかかりますが、活動の有効性はいずれ報告されるべきと思います。</p>
50	<p>木材価格に補助金を出すことによって森の若返りを促進することは考えられないのでしょうか。</p>
51	<p>「森林所有者の自主的管理に任せられるか？」→20年空白期間があるので、すでに厳しいと思います。今後、将来を考えて、ここについてもっと議論すべきだと思います。</p>
52	<p>水源林の整備計画や目標林型（複・単層林、針・広・混交林等）について、決定方法やゾーニングなどご説明ください。</p> <p>林道や作業道からの距離や樹種、上流か下流か等についても異なると思います。杉本様のおっしゃるような定期的な更新は必要と考えました。また、流木対策として、上流域での森林整備についても手法を教えてください。</p>